

令和7年度 教育課程特例校における特別な教育課程【実施状況報告】

箕面市立第二中学校

1.概要

箕面市では平成27年4月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間140時間(週4時間)の外国語科(英語)に加えて、総合的な学習の時間から年間30時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に1時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境づくりを行うことができます。特別の教育課程を実施することで、9年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境づくりを行っていきます。

2.学校関係者からの意見（実施の成果及び課題など）

- 小学校から英語に触れる機会があることで、子どもたちが英語に親しみを持って、継続的に学習できるところが素晴らしいです。
- 英語コミュニケーションの授業は、ALT と英語教員がオールイングリッシュで授業を展開していくので子どもたちが英語に慣れ、入試などのリスニングテストに強くなります。
- 英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる姿がある。
- 校内において ALT と子どもたちが手を振りながら気さくに話しかけ、日常的に簡単な英語を使ってコミュニケーションを取ろうとするなど、英語に親しんでいる様子が伝わります。

3.今後に向けて（課題の改善のための取組など）

- 英語コミュニケーションに慣れ親しむことは、子どもたちのスピーキング能力・リスニング能力を高めるために大切なことです。英語コミュニケーションの授業は ALT を中心に授業を展開するため、子どもたちの英語への興味・関心を高めるよい機会になっています。今後、子どもたちが英語に慣れ親しみ、英語を活用できる能力を高め、国際社会で活躍できる生徒を育てていきたいです